

職業としてのランドスケープ・アーキテクト

A Landscape Architect as a Professional

別所 力 *Tsutomu BESSHO*

ジェームズ・コーナー・フィールド・オペレーションズ
James Corner Field Operations



クリエイティブな仕事？

“無”から何かを生み出すイメージがあるランドスケープ・アーキテクト（以下LA）は、多々あるランドスケープに関わる仕事のなかでも、花形といえよう。初対面の人に、自分の職業をLAと名乗ると、「クリエイティブな仕事でいいね」とか「夢の見える仕事でいいね」という反応が多い（「うちの裏庭に日本庭園をデザインしてよ」というのも多いのだが）。確かに、プロジェクトの初期段階に、カラフルなダイアグラムやレンダリングと共に、コンセプトを導きだすことは、非常にエキサイティングな作業である。プロジェクトの完成を夢見ながら、トレーシングペーパーに「あーでもないこーでもない」とスケッチを繰り返す時間は、自分の想像力をかき立ててくれる。

もちろん自分は、そんなクリエイティブで夢のある面に魅かれて、LAになる道を選んだのであるが、10数年の実務を経て、この仕事にはそんな輝かしい一面とはまた一味違った別の顔があることを知った。それは、コンセプト作成段階で練り上げた大きなビジョンを、実際の空間として実現するためのプロセスである。前者が晴れやかな“ハレ”の作業とすると、後者は縁の下の力持ち的な“ケ”の作業といえよう。

クライアントとの協働

架空のプロジェクトと違い、現実のプロジェクトには、必ずクライアントが存在する。政府、地方公共団体、公共

機関、ディベロッパーなどさまざまなクライアントがいるが、どのクライアントも決して一筋縄ではいかない。これはLAが対象とするオープンスペースの多くが公共空間であり、その公共性故、ステークホルダーが有数無数、存在するからである。

例えば、ハイラインのクライアントグループの主体は、所有団体であるニューヨーク市と管理団体であるNPOのフレンズ・オブ・ハイラインである。しかし、ニューヨーク市といっても決して単独の団体でなく、その名の下に市長室、公園局、都市計画局、経済開発公社、デザイン委員会といった様々な機関が存在する。そしてもちろん、地元市民や市民団体のことも忘れてはならない。これらの機関・団体が、それぞれの立場から、それぞれの利益や関心のために、さまざまな要件を提示するのである。こういった要件を基に、LAが中心となり、プログラム、審美性、予算、維持管理、アクセシビリティ、環境や生態系への配慮といった多様かつ相反する意見を取りまとめ、一つのデザインに仕上げるのである。

コンサルタントとの協働

クライアントが、プロジェクトの川上に位置するものとする、その川下に位置するのが、一連のコンサルタント群である。二次元を中心とするオープンスペースの設計・施工は、三次元を中心とする建築と違い、LAだけでデザインを完結することができると思われ勝ちである。しかし、実際は、どんなに小さなプロジェクトでも、さまざまな専門性を備えたコンサルタントの手助けが必要なのである。

現在、自分が関わっている、シェルビー・ファームズ・パークという既存の公園内に人造湖とその周辺を整備するプロジェクトには、ビジターセンターやレストランをデザインする建築家や、敷地内の雨水を湖の水源に利用するための雨水排水設計をする土木をはじめ、構造、植栽、土壌、灌水、グラフィックなど様々なコンサルタントが関わっている。そして、これらコンサルタントを一つのデザイン・チームとして率いるのがLAの仕事である。

LAが、プロジェクトのビジョンを実現するために必要とされるタスクをそれぞれのコンサルタントに割り振り、



写真-1 ハイライン・パーク
ニューヨークの全長2.5kmの高貨廃線跡に作られた公園
© Iwan Baan



写真-2 シティ・センター
ラスベガスのストリップに面する大規模リゾート施設
© James Corner Field Operations

コンサルタント間の調整を取り仕切り、最終的には、そのビジョンを実施図面と特記としてまとめあげるのである（締め切り間際の催促も重要な仕事の一部である）。ここで求められるのは、専門性の高いスペシャリストというよりは、広く浅い知識でジェネラリストとしてのLAである。

シェルビー・ファームズ・パークでは、プロジェクトの核となる湖の造成に、プログラムや審美性に重点を置くLAと、湖の水面レベルを、天候に左右されず一年を通していかに一定に保つかに重点を置く土木技術者との緊密な協働関係が求められた。LAである自分が書いた造成図面を、土木技術者が計算にかけ、朱入れし、それを基にまた図面に手を入れる。こんなやりとりが数え切れないほど交わされた。

施工業者との協働

クライアント、コンサルタントと来て、もう一つ忘れていけないのが、施工業者である。どんなに素晴らしいデザインができて、LAはそれを直接自分の手で作ることはできないので、最終的な成果物は施工業者の腕にかかっている。図面や特記からだけでは伝わらないデザイン意図をいかにコントラクターと共有するかがLAの仕事である。

予算と工期を最優先させるコントラクターと、自分たちのデザインを、ビジョンの通り現実のものにしようとするLAとの間には、確執が生じてしまうことも多々ある。そ



写真-3 クイーン・エリザベス・オリンピック・パーク
ロンドン・オリンピックのメイン会場跡地に作られた公園
© James Corner Field Operations

のような時は、とことん話し合い、お互い歩み寄ろうとする。高尚なデザイン理論ではなく、人と人とのコミュニケーション能力が必要とされるのである。

ランドスケープ・アーキテクトであること

大きなビジョンを生み出す“ハレ”の作業にクリエイティブな能力が求められる一方、それを実現させるための“ケ”の作業には、指揮者のような調整力と、ゴールに向け地道に一歩一歩進む忍耐力が求められる。プロジェクトの初期段階に、その先に待っているさまざまな調整ごとを全く考えずにコンセプトを練り上げて、それは絵に描いた餅で終わってしまう。逆に、プロジェクトを具現化する段階に、プロジェクトの骨格となるビジョンを忘れ、ただ目先の問題解決に走るのも、本末転倒である。それはまさに、どちらも欠かせないものなのである。このように、ビジョンを生み出し、それを実現するという二面性の上に成り立つLAの仕事、これこそが自分にとってLAであることの醍醐味である。

北米でのオープンスペースへの関心は日増しに高まっており、ここをパブリックオープンスペースにしたいという声は、地方公共団体やディベロッパーからだけでなく、市民団体からもあちこちで上がっている。その担い手となるLAには大きな期待が寄せられており、自分も、そんな人々の夢をかなえるためのプロフェッショナルとして、“ハレ”と“ケ”の作業を両輪にし、さらに鍛錬を重ねていきたい。



写真-4 クリーブランド・パブリック・スクエア
車道によって分断されていた既存都市広場の改修プロジェクト
© James Corner Field Operations, Courtesy of Donley's Construction

(略歴)

米国公認登録ランドスケープ・アーキテクト、ジェームズ・コーナー・フィールド・オペレーションズ所属。ペンシルバニア大学大学院デザイン学部ランドスケープアーキテクチャー学科修了、2006年より現職。主なプロジェクトにシティ・センター、クイーン・エリザベス・オリンピック・パーク、シェルビー・ファームズ・パーク、クリーブランド・パブリック・スクエア等。共著書に「海外で建築を仕事にする2都市・ランドスケープ編」(学芸出版社)等。